

「白河ソーラーパーク」建設工事の起工式が執り行われました

ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社（東京都港区、代表取締役社長：竹内一弘、以下「JRE」）と一般財団法人ふくしま未来研究会（福島県福島市、代表理事：佐藤勝三、以下「未来研」）及び信夫山福島電力株式会社（福島県福島市、代表取締役：渡邊和弘、以下「信夫山」）が共同出資する合同会社白河ソーラーパークが福島県白河市で建設を開始した大規模太陽光発電所「白河ソーラーパーク」の起工式が、10月15日に現地にて執り行われました。

式典には白河市の圓谷副市長をはじめ、事業者や工事関係者など約60名が出席し、工事期間中の安全を祈願しました。

本プロジェクトは、白河市大信地区の未利用地約128ヘクタールの敷地に太陽光パネル約185,000枚を設置する、東北地方最大級（約73.9MW）の太陽光発電所となります。

JRE・未来研・信夫山の3社は、2016年9月に、福島県内における太陽光・風力・小水力・バイオマス等の再生可能エネルギー発電所の共同開発合意書を締結しました。現在は本プロジェクトのほかに、初の共同出資事業として2017年4月から「西の郷ソーラーパーク」（44MW）を建設しており（2020年1月運転開始予定）、さらに今後30MW級の風力発電所の建設を計画しております。

福島県は2012年3月に「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」を策定し、再生可能エネルギーによる社会づくりを東日本大震災からの復興に向けた主要施策のひとつとして位置付けています。JRE・未来研・信夫山の3社は、本プロジェクトがその未来像に大きく貢献できる取り組みになると考えております。

当社はこれからも、県内での再生可能エネルギーによる発電所開発を通じ、福島の復興と再生可能エネルギーの普及に向けて取り組んでまいります。

【本プロジェクト概要】

発電所名	白河ソーラーパーク
事業会社名	合同会社白河ソーラーパーク (JRE・未来研・信夫山の合弁事業体)
設備容量	73,892kW (パネル枚数 184,730 枚)
年間計画発電量	約 7,970 万 kWh/年 (一般家庭約 18,120 世帯分の年間消費電力量相当)
CO ₂ 削減量	約 41,510 トン/年
売電先	東北電力株式会社
工期	2019年5月～2021年12月
運転開始	2021年12月末予定



完成予想図



うがちのぎ
神事で穿初之儀を行う様子。
左から信夫山 渡邊代表、未来研 佐藤会長、当社 竹内社長。

本件に関するお問い合わせ先

ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社

広報 CSR 部 e-mail : pr@jre.co.jp